

今月は、これから1年役立つハンディーな航空祭バイブルが別冊付録だ!

JWings

「Jウイング」戦闘機が楽しくなる
ミリタリーマガジン

6
2014
No.190

今年はアメリカ軍のエアショーが復活!
米空軍、海軍、海兵隊エアショー・レポート

航空自衛隊60周年
空自アニバーサリー・イヤーが
はじまった!

別冊付録

航空祭ウォッチング
ハンドブック
2014-2015



キーワードは「統合運用」! 任務と組織と装備を知る
航空自衛隊 / 海上自衛隊 / 陸上自衛隊

自衛隊がわかる2014



シーズン開幕! 今年はどこに行く?

航空祭へ いこう!!



アメリカならではの広大な訓練空域を使って行われる
 多国間軍事演習「レッドフラッグ」。
 今年2回目となる「レッドフラッグ14-2」には、アメリカとベルギー、
 デンマーク、UAE、サウジアラビアの5ヶ国とNATOが参加。
 12日間にわたって行われた、実戦さながらの演習の様相を紹介しよう。

ネバダで繰り広げられた 各国空軍の競演

—アメリカ空軍 多国間演習レッドフラッグ14-2

写真:Phodocu (特記以外) Photos by Phodocu
 文:阿南美保 Text by Miho ANAN



ネリス空軍基地のエプロンいっぱいに広がった、演習参加機の列線。
 エプロン上ではブルーフォース(味方)もレッドフォース(敵)もないようだ



アメリカ空軍第65アグレッサー飛行隊の
 F-15。アグレッサー機の下面の迷彩を見
 比べることができる珍しいショットだ



ベルギー空軍第350戦闘飛行隊のF-16AM。同隊の
 F-16AMは参加10機のうち5機にトラブルが発生し、3月4
 日の時点では2機がネリス空軍基地に到着していなかった

デンマーク空軍のF-16AM。デンマーク空軍はスクリュズトルブ戦闘航空団隷下
 の第727、第730戦闘飛行隊から機体と要員を選抜して今回の演習に送り込んだ



新人パイロットの教育に 最適なレッドフラッグ

3月3日から14日の12日間、ネバ
 ダ州のネリス空軍基地で、アメリカ
 軍と同盟国空軍が参加する多国間
 軍事演習「レッドフラッグ14-2」が
 開催された。



ラスベガスの高層ビル群をバックに離陸するオレゴン州
 空軍第123戦闘飛行隊のF-15C(写真: Miho ANAN)

レッドフラッグはネリス空軍基地
 とアラスカ州のエルメンデルフ空軍
 基地で開催されており、今年1月
 に開催された「14-1」と今回紹介
 する「14-2」、7月に開催される
 「14-3」の3回が予定されている。
 レッドフラッグは参加国の空軍が

本国では行うことの難しい、大きな
 演習空間を使った実戦さながらの
 訓練環境を提供し、アメリカ空軍も
 含めた参加各国空軍のパイロットの
 スキルアップを図ることを目的とし
 ており、実戦経験のない新人パイロ
 ットの教育には最適な演習と評さ
 れている。演習には新人パイロット
 だけでなく、教官パイロットも参加
 するが、今回の演習に参加したアメ
 リカ空軍の第96爆撃飛行隊に所属
 するB-52Hのクルーは、若手主体
 であった。



離陸するアメリカ空軍第388戦闘飛行隊のF-16C。
 地上には活動再開が決まったサンダーバーズの
 F-16Cの姿が見える(写真: Miho ANAN)

南ネバダの山岳地帯が 過酷な戦場へと変わる

今回の演習は初夏を思わせる気
 候の南ネバダの山岳地帯で、参加部
 隊による連合軍で構成されたブル
 ーフォースと、F-16C/DとF-
 15C/Dを運用するアメリカ空軍
 の第64および第65アグレッサー飛
 行隊が務めるレッドフォースが戦闘
 を行うという形式で行われた。演
 習のシナリオは対地攻撃、防空、電
 子戦など多岐に渡っている。演習
 は昼間だけでなく夜間も行われ、シ
 ナリオは段階を追うごとに任務達
 成の難易度が上昇し、しかも状況に
 応じてシナリオに追加や変更が加
 えられるという現実的なもので、演
 習のシナリオは1年間をかけて作
 成されるという。



着陸するアメリカ空軍第64アグレッサー飛行隊のF-16C。
 ロシア空軍機を擬した迷彩塗装をまとうっており、空中では
 MiG-29などを擬した動きでブルーフォースに襲い掛かる

今回の演習に参加したブルーフ
 ースの規模は18ユニット(部隊)
 で、参加航空機は計104機、参加
 人員は約2000人を数えた。海
 外からはデンマーク空軍とベルギー
 空軍のF-16AM、アラブ首長国連
 邦空軍のF-16E/F、サウジアラ
 ビア空軍のF-15S、NATO所属
 のE-3Aが参加。アメリカ海軍第



ブルーフォースに近接航空支援機として参加
 した、アメリカ空軍第336戦闘飛行隊のF-15E

「アーキティック・フランカー・スキーム」と呼ばれる、極北地帯に配備されているロシア
 空軍のフランカーを擬した三色彩が施された第64アグレッサー飛行隊のF-16C



141電子攻撃飛行隊のE-4A、18Gグラウラーも厚木基地から参加を予定していたが、直前になってキャンセルした。

海外からの参加者にはネバダ州はもちろん、アメリカに初めて訪れたという者も多く、演習の開催前には約3日を費やして、飛行レンジや飛行にあたっての細かいルールのブリーフィングが行われた。

国防費が削減されるからこそ レッドフラッグの価値は高まる

レッドフラッグは世界的にも規模の大きな演習であることから、世界各国から多くのカメラマンやジャーナリストが取材のために集まる。このため演習2日目の3月4日をメディアデーとして、午前中にアメリカ空軍とベルギー空軍、NATOのE-3Aのパイロットやクルー、地上要員のインタビューと写真撮影がセッションされ、約80人のメディア関係者を出迎えた。

インタビューに参加したデンマーク空軍のストックホルム少佐は、参加する10機のF-16AMのうち5機にトラブルが発生し、インタビュー当日の時点で、まだ2機が到着していない事を明らかにした。レッドフラッグへの参加は得難い機会だが、ヨーロッパや中東から長距離を飛行して参加するのは容易なことではないのだろう。

アメリカ空軍第96爆撃飛行隊のホーク大尉は、レッドフラッグ演習に参加する意義を問われると、「レッドフラッグ演習への参加で最も有益なのは、各種の戦闘機や電子戦機といった、爆撃機以外の機体のクルーと戦術について議論できるところだ」と述べ、今回の参加部隊で主体となつてくる若いクルーに対しては、「失敗は犯すだろうが、そこから多くを学んでもらいたい」と続けた。



ドラッグシュートを展開させて着陸するアメリカ空軍第92爆撃飛行隊のB-52H。同隊は今回の演習に若手主体のクルーで臨んだ



アメリカ空軍第79救難飛行隊のHC-130J。2012年に運用が開始されたばかりの新鋭機で、従来のHC-130P/Nに比べて夜間作戦能力や自己防御能力が大幅に強化されている



NATOから参加したE-3A。NATOのE-3は広大な空域を使った演習を行う機会が少なく、レッドフラッグはその絶好の機会と言える



ニューハンプシャー州空軍第157空中給油飛行隊のKC-135R。今回の演習には空軍の航空機動航空団と空中給油航空団KC-135Rも参加している

また、同じ質問に対してNATOのE-3Aのクルー、ドイツ空軍のリューフェン中佐は、「ヨーロッパではレッドフラッグのような大きな空域を使った訓練や演習を行う機会がなく、レッドフラッグへの参加は絶好の機会だ」と述べている。

今回のインタビューに参加したクルーは全員NATO加盟国の所属であり、緊迫していたウクライナ情勢に対しては全員が高い関心を示した。また、アメリカの国防費削減がレッドフラッグ演習の実施を困難にするのではないかと問うに対しては、各国とも国防費の削減などから装備の更新が進まない状況下において、

参加したクルーの技量と参加各国のインターオペラビリティを向上させるレッドフラッグ演習の価値は逆に高まっており、今後も続いていくとの認識で一致していた。



メディアを対象としたインタビューに参加した各国のクルー。アメリカ空軍からの参加者は全員パイロットだが、ベルギー空軍からは整備員、ドイツ空軍(NATO)からはE-3のオペレーターが参加している(写真: Miho ANAN)

レッドフラッグ14-2 参加機

●レッドフォース

○仮想敵機

F-16C/D(アメリカ空軍第57航空団第64アグレッサー飛行隊、ネリス空軍基地)

F-15C/D(アメリカ空軍第57航空団第65アグレッサー飛行隊、ネリス空軍基地)

●ブルーフォース

○迎撃戦闘機

F-15C/D(オレゴン州空軍第142戦闘航空団第123戦闘飛行隊、ポートランド国際空港)

F-15C/D(アメリカ空軍第96試験航空団第96試験飛行隊、エグリン空軍基地)

F-16CM(アメリカ空軍第388戦闘航空団第9/12団第4戦闘飛行隊、ヒル空軍基地)

○SEAD(敵防空網制圧)機

F-16CJ(アメリカ空軍第20戦闘航空団第55戦闘飛行隊、ショー空軍基地)

F-16CJ(アメリカ空軍第20戦闘航空団第77戦闘飛行隊、ショー空軍基地)

○近接航空支援機

F-15E(アメリカ空軍第4戦闘航空団第332戦闘飛行隊、シーモアジョンソン空軍基地)

B-52H(アメリカ空軍第2爆撃航空団第96爆撃飛行隊、バークスデール空軍基地)

F-15S(サウジアラビア空軍)

○マルチロール機

F-16AM(ベルギー空軍第350飛行隊)

F-16AM(デンマーク空軍第727および第730飛行隊)

F-16E/F(アラブ首長国連邦空軍)

○警戒管制機

E-3C(アメリカ空軍第552空中管制航空団第965空中管制飛行隊、ティンカー空軍基地)

E-3A(NATO軍)

○戦闘捜索救難機

HH-60G(アメリカ空軍第57航空団第66救難飛行隊、ネリス空軍基地)

HC-130J(アメリカ空軍第23航空団第79救難飛行隊、デビスモンサン空軍基地)

○空中給油機

KC-135R(アメリカ空軍第6航空機動航空団第91空中給油飛行隊、マクディール空軍基地)

KC-135R(アメリカ空軍第22空中給油航空団、マッコネル空軍基地)

KC-135R(ニューハンプシャー州空軍第157空中給油飛行隊、ピース国際空港)



アラブ首長国連邦空軍のF-16F。演習には多くのF-16が参加したが、F-16EおよびF-16Fは、コンフォーマル燃料タンクを背負ったマッシュアップな姿でひととき目立っていた(写真: Johnny Walkman)
サウジアラビア空軍のF-15S編隊。両機とも胴体下面の前方右側のパイロンにAN/AAQ-19目標指示ポッド、左側のパイロンにAN/AAQ-20航法ポッドを懸吊している(写真: Johnny Walkman)

